

2025年3月期通期 決算説明資料

Fiscal Year Ending March, 2025
Financial Results

2025年5月14日
株式会社エフテック
証券コード：7212



「エフテック」で検索
<https://www.ftech.co.jp>

1 決算概要

Financial Summary

2 業績予想

Earnings Forecast

3 事業状況

Business Status

1 決算概要

Financial Summary

2 業績予想

Earnings Forecast

3 事業状況

Business Status

連結決算概要（前年同期比）



（単位：百万円）

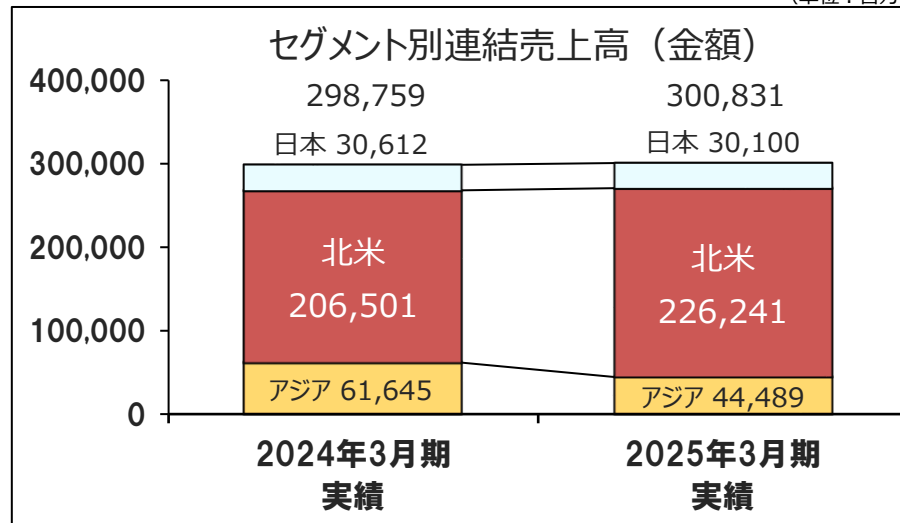
	2024年3月期 実績		2025年3月期 実績		増減	
売上高	298,759	100.0%	300,831	100.0%	2,073	0.7%
営業利益	3,708	1.2%	5,481	1.8%	1,773	47.8%
経常利益	3,001	1.0%	3,047	1.0%	45	1.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,683	0.6%	▲6,925	▲2.3%	▲8,608	－
1株利益(円)	90.62	－	▲372.97	－		－

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減
1 US\$	145.32円	152.61円	7.29円
1 CAN\$	107.65円	109.36円	1.71円
1 人民元	19.88円	21.13円	1.25円

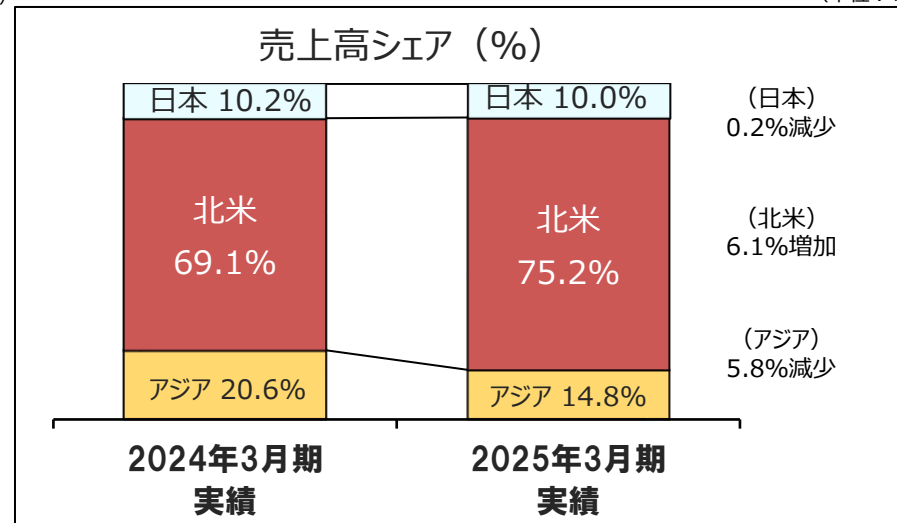
売上高、営業利益は増収増益。中国の希望退職及び減損損失影響により最終利益は▲69億円の損失。
期中平均は円安も、12月から3月までに円高が進行し為替差損が発生、営業利益から経常利益が大きく落ちる

連結売上高（前年同期比）

（単位：百万円）



（単位：％）



連結売上高増減

	2024年3月期	2025年3月期	増減	増減率	為替影響	実質増減	増減率
日本	30,612	30,100	▲512	▲1.7%	—	▲512	▲1.7%
北米	206,501	226,241	19,739	9.6%	8,896	10,844	5.3%
アジア	61,645	44,489	▲17,155	▲27.8%	2,398	▲19,554	▲31.7%
連結	298,759	300,831	2,072	0.7%	11,295	▲9,222	▲3.1%

北米は増収、アジアは中国地域の減産の影響により大幅減収。

セグメント別営業利益（前年同期比）

（単位：百万円）

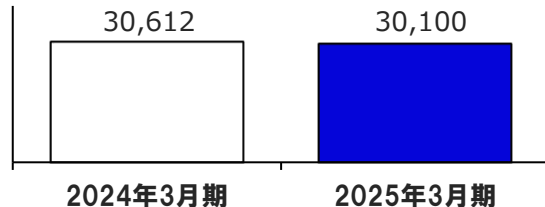
	金額			
	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減	増減率(%)
日本	1,352	▲1,093	▲2,446	—
北米	758	8,024	7,266	958.3%
アジア	1,511	▲1,609	▲3,121	—
合計	3,622	5,321	1,698	46.9%
調整	85	160	74	87.8%
連結	3,708	5,481	1,773	47.8%

営業利益は47.8%の増益。日本は北米ターンアラウンド費用計上により前年同期比で減益。
北米は増産効果等で大幅増益。アジアは中国での減産により昨年同期比減益。

セグメント別連結業績（日本）

（単位：百万円）

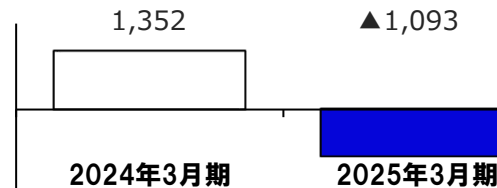
売上高



増減額	▲512
増減率	▲1.7%
為替影響	－
実質増減	▲512
増減率	▲1.7%

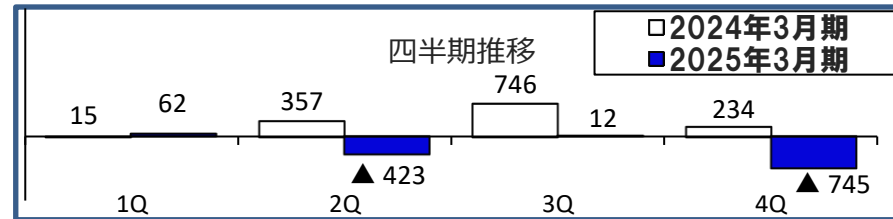
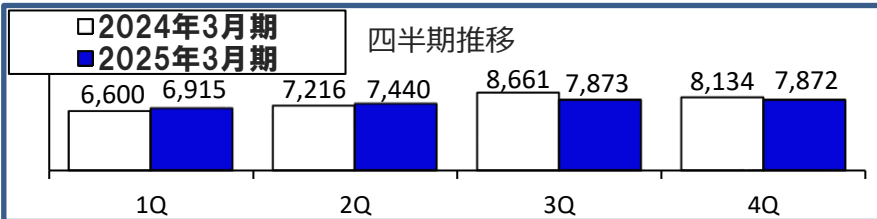
増減理由		
1	製品及び商品売上の増減	636
2	技術収入売上の増減	▲1,328
3	国内子会社の売上増減	734
4	連結消去	▲553
合計		▲512

営業利益



増減額	▲2,446
増減率	－
為替影響	－
実質増減	▲2,446
増減率	－

増減理由		
1	製品及び商品の売上増減影響	196
2	技術収入減少影響	▲1,380
3	販売管理費の増加（ターンアラウンド費用、開発費増加）	▲1,300
4	国内子会社の売上増減影響	38
合計		▲2,446

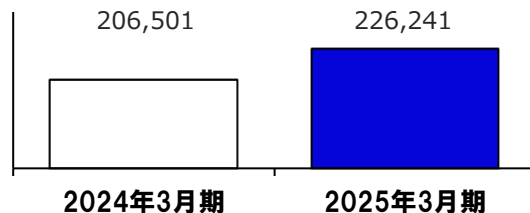


売上はロイヤリティ、開発費売上減少で微減。利益はターンアラウンド費用、開発費国内負担増加で損失を計上

セグメント別連結業績（北米）

（単位：百万円）

売上高

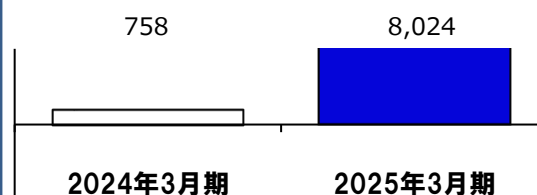


増減額	19,739
増減率	9.6%
為替影響	8,896
実質増減	10,844
実質増減率	5.3%

増減理由

	増減理由	
1	製品売上増減（増産、新規受注など）	13,036
2	商品売上増減	▲2,192
3	為替換算影響	8,896
	合計	19,739

営業利益

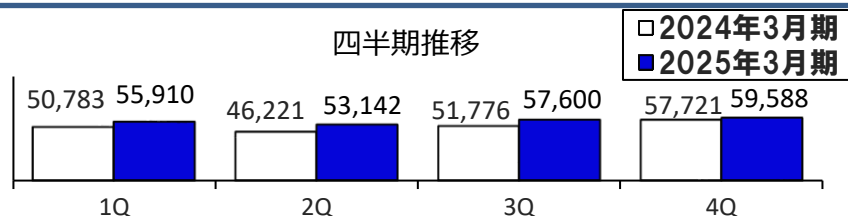


増減額	7,266
増減率	958.3%
為替影響	453
実質増減	6,814
実質増減率	898.6%

増減理由

	増減理由	
1	製品売上増加による増益（新機種効果含む）	3,805
2	商品売上減少影響	▲438
3	原価改善など	3,447
4	為替換算影響	453
	合計	7,266

四半期推移



四半期推移

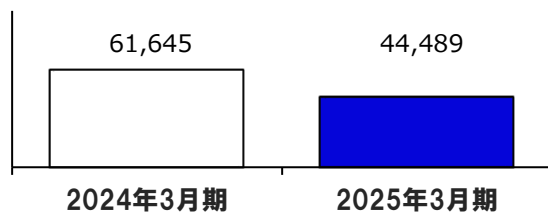


ホンダ様向けの売上増加と改善効果で増収増益、新機種立上げも好影響。

セグメント別連結業績（アジア）

（単位：百万円）

売上高

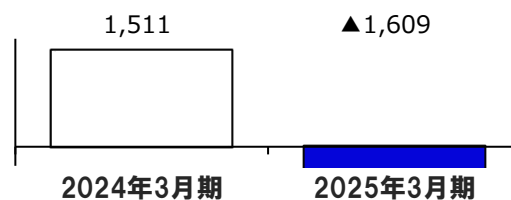


増減額	▲17,155
増減率	▲27.8%
為替影響	2,398
実質増減	▲19,554
増減率	▲31.7%

増減理由

1	（中国）製品売上減少	▲16,233
2	（ア大）製品売上減少	▲3,323
3	為替換算影響	2,398
	合計	▲17,155

営業利益

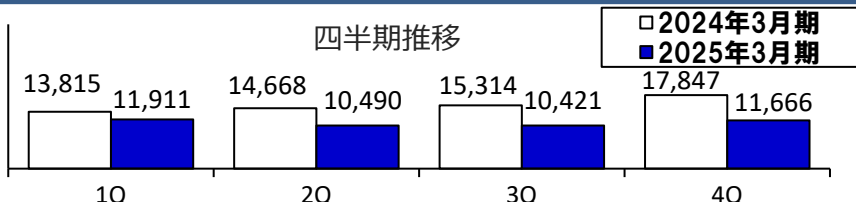


増減額	▲3,121
増減率	—
為替影響	▲129
実質増減	▲3,023
増減率	—

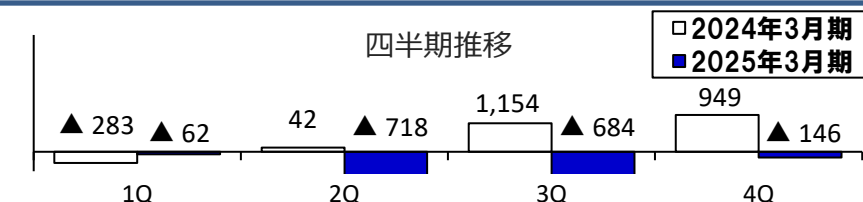
増減理由

1	（中国）製品売上減少による減益	▲2,335
2	（ア大）製品売上減少による減益	▲658
3	為替換算影響	▲129
	合計	▲3,121

四半期推移

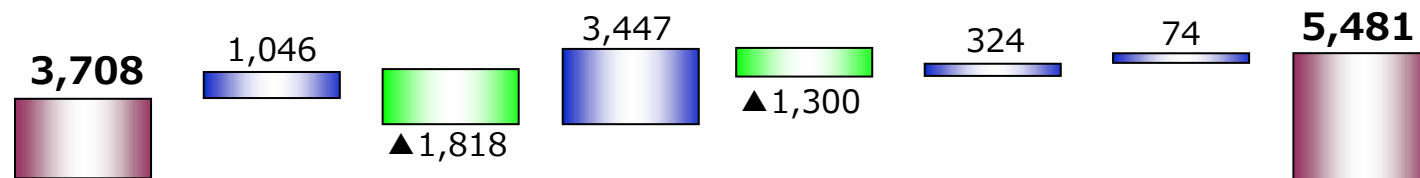


四半期推移



中国及びタイは、ホンダ様の減産により減収減益

セグメント別営業利益（2025年3月期 4Q実績）



	2024年 3月期	製品売上 影響	商品 技術収入 売上影響	改善	販管費	為替影響	連結調整	2025年 3月期	増減
日本	1,352	234	▲1,380		▲1,300			▲1,093	▲2,446
北米	758	3,805	▲438	3,447		453		8,024	7,266
アジア	1,511	▲2,993				▲129		▲1,609	▲3,121
調整	85						74	160	74
連結	3,708	1,046	▲1,818	3,447	▲1,300	324	74	5,481	1,773

1 決算概要

Financial Summary

2 業績予想

Earnings Forecast

3 事業状況

Business Status

連結業績予想（前年同期比）

（単位：百万円）

	2025年3月期 実績		2026年3月期 予想		増減	
売上高	300,831	100.0%	296,000	100.0%	▲4,831	▲1.6%
営業利益	5,481	1.8%	8,000	2.7%	2,519	45.9%
経常利益	3,047	1.0%	6,200	2.1%	3,153	103.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲6,925	▲2.3%	3,300	1.1%	10,225	－
1株利益(円)	▲372.97		177.73		550.70	－

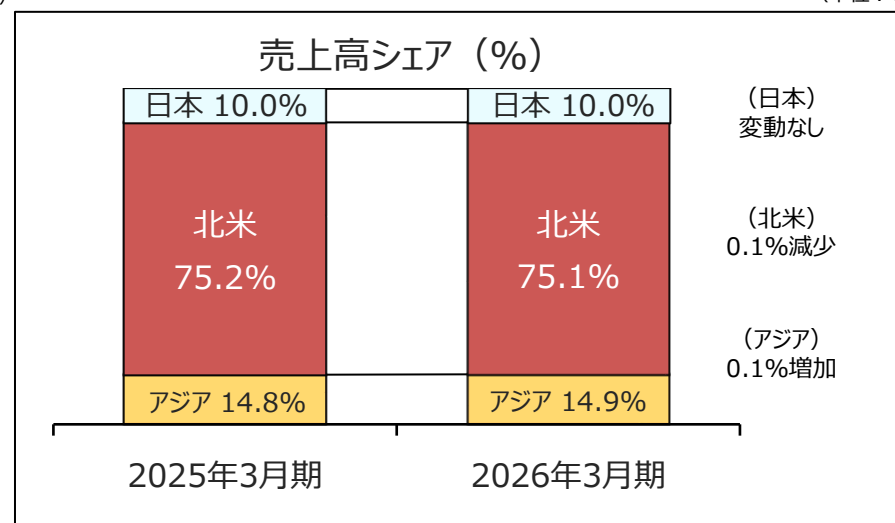
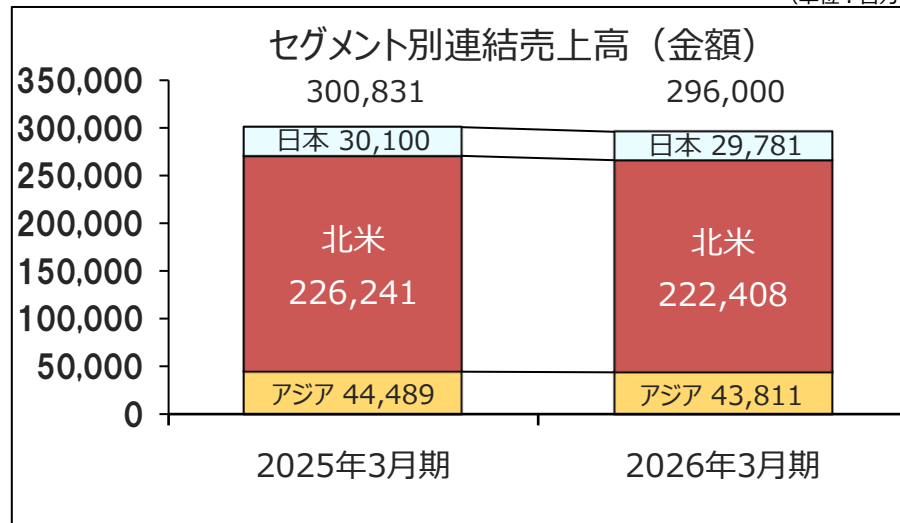
	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減
1 US\$	152.61円	145.00円	▲7.61円
1 CAN\$	109.36円	106.60円	▲2.76円
1 人民元	21.13円	20.00円	▲1.13円

売上高は為替影響により減収、実質増収。営業利益以下は前年同期比増益。

連結売上高（前年同期比）

（単位：百万円）

（単位：％）



連結売上高増減

	2025年3月期	2026年3月期	増減	増減率	為替影響	実質増減	増減率
日本	30,100	29,781	▲319	▲1.1%	-	▲319	▲1.1%
北米	226,241	222,408	▲3,833	▲1.7%	▲10,305	6,472	2.8%
アジア	44,489	43,811	▲678	▲1.5%	▲2,423	1,745	3.9%
連結	300,831	296,000	▲4,830	▲1.6%	▲12,728	7,898	2.6%

為替の影響による減収も、実質増減では増収。

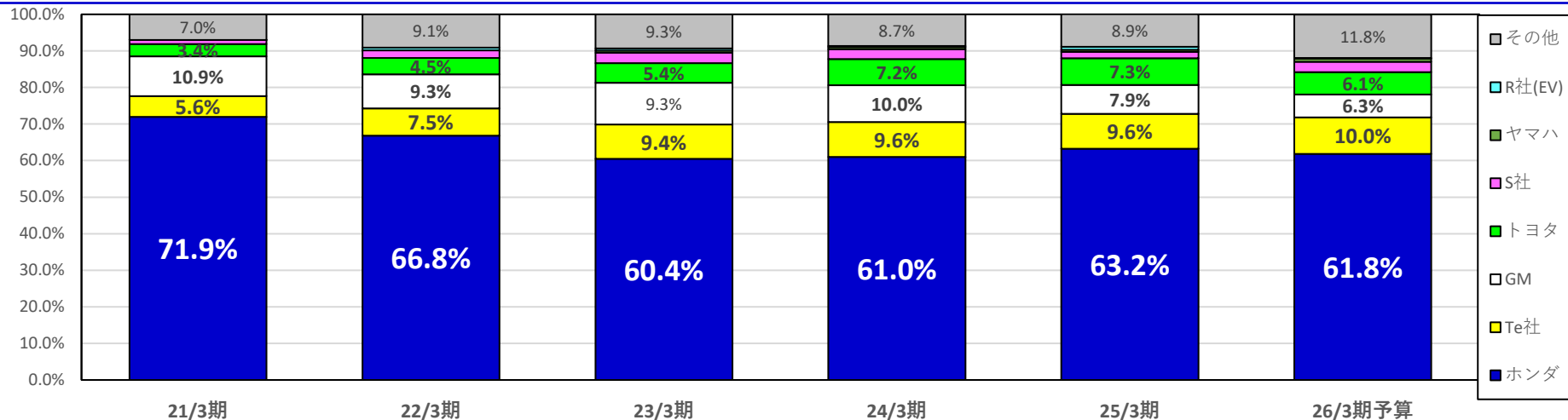
セグメント別営業利益（前年同期比）

（単位：百万円）

	金額			
	2025年 3月期 実績	2026年 3月期 予想	増減	増減率 (%)
日本	▲1,093	451	1,544	—
北米	8,024	5,976	▲2,048	▲25.5%
アジア	▲1,609	1,655	3,264	—
合計	5,321	8,082	2,761	51.8%
調整	160	▲82	▲78	—
連結	5,481	8,000	2,519	45.9%

営業利益は80億円。前年同期比25.1億円の増益。
全セグメントで黒字計画

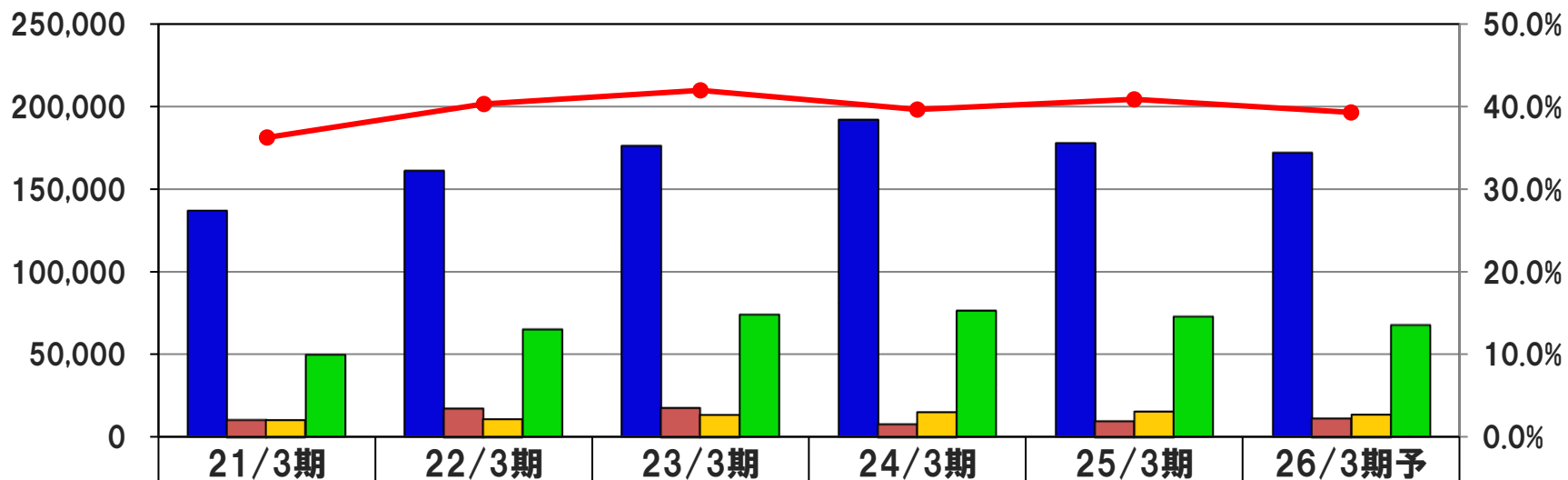
得意先別売上高の推移



	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期 予算
ホンダ	132,123	128,269	157,846	182,244	190,166	183,002
Te社	10,374	14,317	24,549	28,590	28,778	29,619
GM	20,051	17,791	29,900	29,954	24,280	18,703
トヨタ	6,178	8,563	14,033	21,440	21,531	18,115
S社	2,066	4,002	7,369	8,097	4,956	8,162
ヤマハ	2	18	1,607	1,768	1,972	2,597
R社(EV)	3	1,526	1,500	808	2,523	739
その他	12,848	17,406	24,351	25,860	26,626	35,063
	183,647	191,892	261,156	298,759	300,832	296,000

(単位：百万円)

■ 総資産 ■ 設備投資 ■ 減価償却費 ■ 有利子負債 ● 有利子負債依存度



	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期予
総資産	136,714	160,931	176,137	191,772	177,555	171,880
設備投資	10,010	16,651	16,907	7,629	9,329	10,987
減価償却費	10,032	10,581	13,112	14,559	14,920	13,288
有利子負債	49,565	64,867	73,925	76,064	72,592	67,560
有利子負債依存度	36.3%	40.3%	42.0%	39.7%	40.9%	39.3%

		1Q末	2Q末	3Q末	期末	合計	配当性向
2024年3月期配当実績			10円		10円	20円	22.1%
2025年3月期配当予定			10円		10円	20円	—
	前回差		0円		0円	0円	—
2026年3月期配当予想		—	10円	—	10円	20円	—
	前回差	—	0円	—	0円	0円	—

配当方針

当社の利益配分に関する基本方針は、業績に基づく利益還元を基本としています。株主の皆様への還元を重要視しており、財務体質の強化を図りながら利益の状況、将来の事業展開など、長期的な視野に立って皆様への利益還元を図ってまいります。

1 決算概要

Financial Summary

2 業績予想

Earnings Forecast

3 事業状況

Business Status

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一社サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

到達目標：
営業利益率 5%

成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

	2024年度	2025年度
目標	課題拠点の再建 目標数値必達	15次中期経営計画目標の達成
やるべきこと	稼ぐ力の向上 原価低減活動 売価改定交渉	一人ひとりが <u>プロフェッショナリズム</u> <u>オーナーシップ</u> の発揮
土台	三現主義を徹底し 実直に 諦めず 粘り強く やり抜く	

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

到達目標：
営業利益率 5%

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

2024年度の実績

- ・ターンアラウンド推進体制の構築
- ・コンサルタントサポートを導入
- ・主要得意先への売価改定交渉
- ・生産領域の改善活動

通期営業利益

6.7百万米ドル（**10**億円）

※1米ドル152.6円で算出

2025年度

生産体質改善施策を25年度も継続
コロナ禍からの完全復活と将来ビジネスの獲得による
新たな成長に向けてスタート

ポイント

事業環境変化への
適切な対応
(トランプ政権、EV市場)

通期営業利益見込み

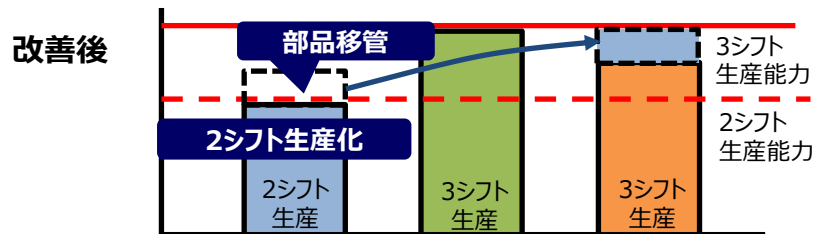
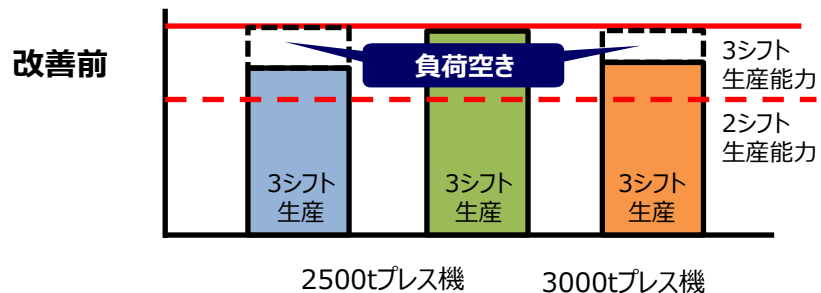
11.7百万米ドル
（**17**億円）

※1米ドル145.0円で算出



生産領域における改善を実施

◆仕事量調整による省人化（プレス）



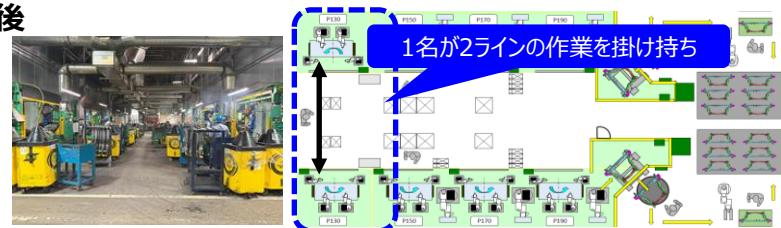
2,500tプレス機の生産部品を3,000tプレス機へ移管し、
生産シフトを削減 → 合計3名の要員削減

◆部品セット時間短縮による省人化（溶接）

改善前



改善後



品質検査を自動化し、作業者の部品セット時間を短縮
→ 合計4名の要員削減

2024年度の方向性

得意先の生産量に見合った
事業構造への転換

2024年度の主な施策

- ・固定資産減損
- ・要員数の適正化
- ・経費削減の徹底
- ・プレス部品内製化
- ・生産ラインの集約
- ・ラインレイアウト変更
- ・新規顧客の開拓

2025年度 事業収益改善の要因

固定資産減損による
減価償却費減

18億円/年

要員数の適正化による
労務費減

9億円/年

プレス部品内製化、経費削減
等の施策による効果金額

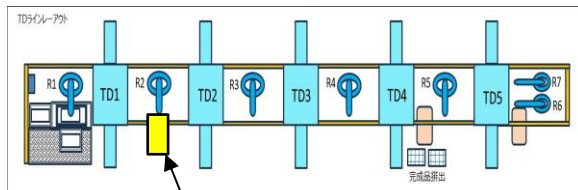
8億円/年

35億円/年
固定費等減少
効果

“要員数の適正化” “固定資産価値の減額”により、ボトム生産対応へ構造変換

製造領域の改善施策例

プレス加工内製化取り組み



半完成品を自動TDMラインに投入するための装置を内製化

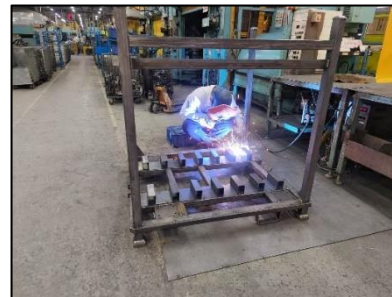


仕掛品投入装置

外作加工費を削減するため、大型部品7点、中・小型部品5点の計12部品を取り込み

効果金額：約**4,000**万円/年

出荷台車を内作、購入費用削減



生産減による余剰台車を改造し、新規購入費を削減する改善を実施

台車1台当たり**20**%のコスト削減

工場内の効率改善に焦点を当てた各種施策を推進

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

到達目標：
営業利益率 5%

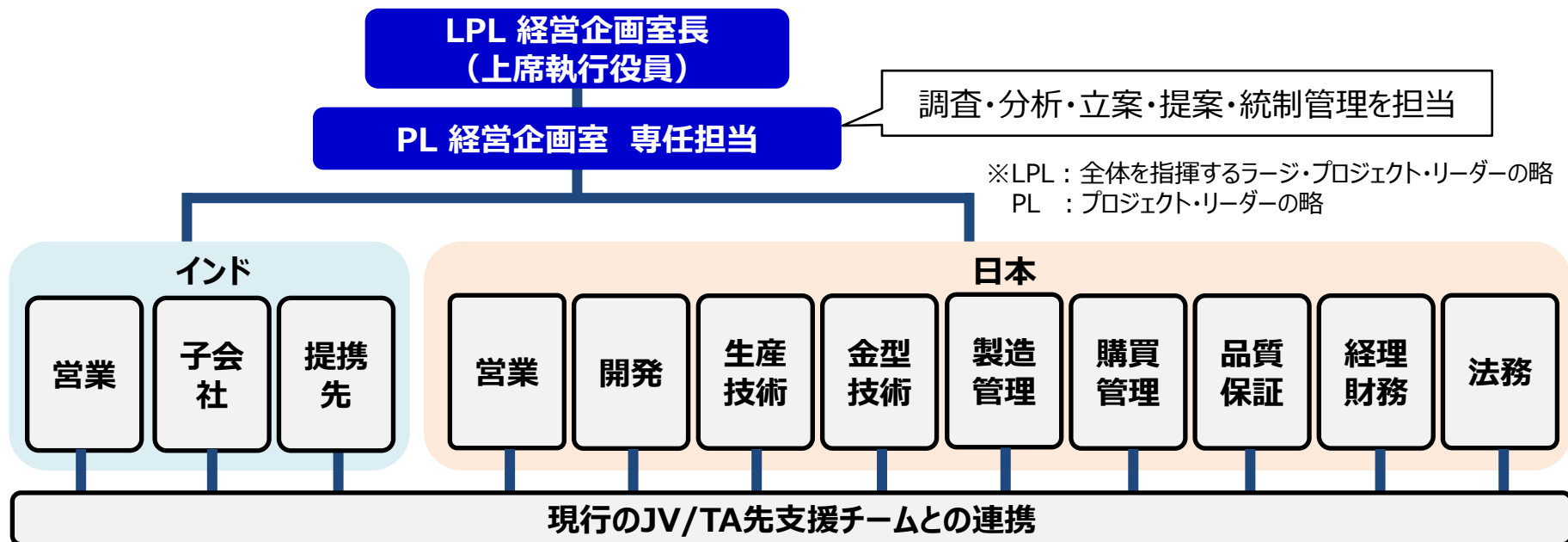
成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

更なる収益拡大を目指し、成長市場であるインドにおいて、
価値創造に向けてチャレンジ

2025年4月 戦略プロジェクトを発足し、ビジネス拡大へのアプローチを開始



インド戦略プロジェクト主導のもと、 競争力強化施策の立案・実行に向けて推進中

検討・立案・実行の概要

Step1
～2026

提携先の
製造体質強化

改善・原価低減活動への支援

Step2
～2026

日系自動車メーカー
継続・新規受注

新規受注の獲得
生産能力を確保

Step3
～2027

R&D設置
SED体制構築

既存取引先の開発領域に参入
現地メーカーにおけるSED評価体制の構築

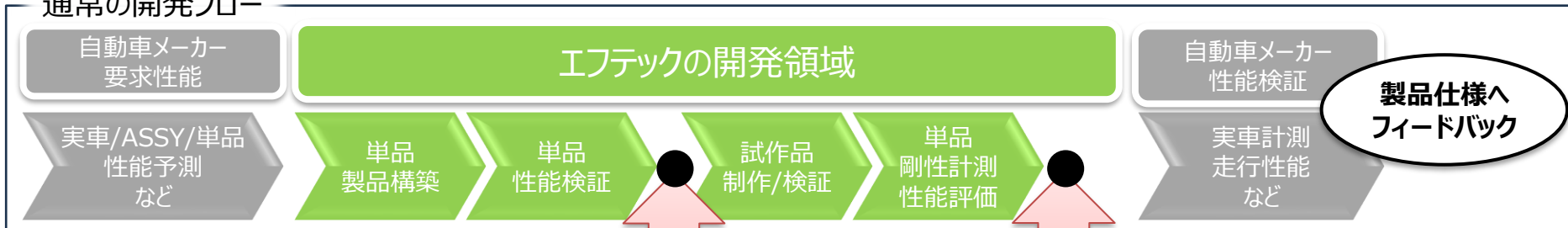
Step4
～2028

現地自動車メーカー
新規受注

インド子/JV会社との協業によるビジネス拡大
新規TA/JV先との連携による生産能力確保



通常の開発フロー



自動車メーカーの協力を得て、通常の開発に

より実車に近づけた状態での計測

を取り入れ

単品計測（従来継続）

- ・強度、耐久、剛性、耐食性
- ・製品出来栄え検証
- ・評価技術
- ・単体性能(静剛性/特性)実測



計測技術

- ・サスペンション特性計測
- ・部品寄与度明確化

※ASSY：複数部品を組み合わせで構成したユニットの意味
“Assembly”の略

ASSY
性能検証

ASSY
性能計測

実車走行性能と
客先要求を紐づけた開発

**高効率開発
最適提案**

自動車メーカーからの受注、
高評価に繋がる

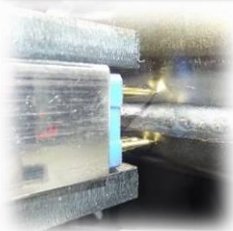
開発領域の拡大や更なる開発効率アップに向けて推進中

非破壊検査機+判定ソフト内製 = **エフテックオリジナルの溶接部非破壊検査技術**

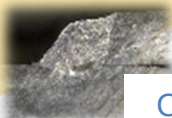
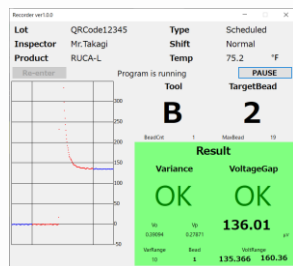
基礎研究

試作機導入

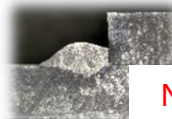
全自動システム化



自社開発検査機



OK



NG

作業員による
非破壊検査運用



ロボットによる
非破壊検査の自動化
(開発中)



導入拠点・車種を拡大し、部品廃却費の更なる削減と検査自動化を目指す

70期（2024年4月～2025年3月）は **4社16車種** を受注
(HONDA, TOYOTA, NISSAN, EVメーカー)

【北米】



【日本】



【ア大】



※一部のみ表記

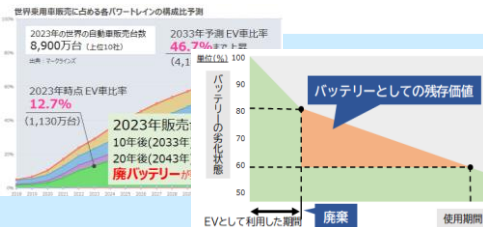
リソース最大活用に向けた戦略的な営業活動により、
自動車メーカーのニーズに対応

カーボンニュートラルの実現において、高性能な車載バッテリーの二次利用は有効なソリューションである

EVバッテリーのリユースビジネスへ参入し、サーキュラーエコノミーの実現を目指す

課題抽出～取り組み内容

●EV及びEVバッテリーの課題抽出



●ソリューション検討（サーキュラーエコノミー）

EV・HEV

Reuse

車で使われなくなった
バッテリーを二次利用

Recycle

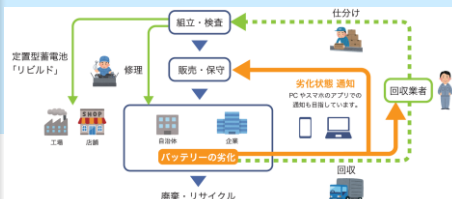
Reconstruction

残存価値の低下
最終的にリサイクル

電圧・容量を再構成
新たな機器へ転用

2024年度 取り組み

- ・コンセプトモデル開発
- ・展示会出展
- ・ソリューションのブラッシュアップ



2025年度 計画

- ・プロトタイプ開発、実証実験
- ・社内、他社への販路確保を踏み出す



最大のテーマ

- ・リユースバッテリー搭載
- ・実証実験
- ・販路確保

製品名	UPS搭載型	水素電池・燃料電池型	水素電池・燃料電池型
製品写真		No Image	
定格容量 (kWh)	1.2 ~ 2.4	~2000	200 ~ 4000
定格電圧 (V)	100 ~ 200	~1000	15 ~ 2000
定格電流 (A)	10 ~ 20	~100	10 ~ 1000
備考	水素電池・燃料電池型	水素電池・燃料電池型	水素電池・燃料電池型

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

到達目標：
営業利益率 5%

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

【EcoVadis】

企業のサステナビリティに関する開示プログラムにおいて**ブロンズメダル**を獲得
(2024年度は世界で22,000社が回答)

	前回	今回
環境	60	71
労働と人権	30	50
倫理	60	68
責任調達	50	63
総合点	47	61

EcoVadis受審企業の上位35%に位置するスコアを獲得

【CDP】

企業の環境情報に関する開示プログラムにおいて23年度に続き**B**を獲得
(2024年度は世界で24,800社が回答)

回答テーマ	前回	今回
気候変動	B	B
水	B	B

(参考)評価クラスと位置づけ、要請

- ・評価はA,A-,B,B-,C,C-,D,D-の8段階
- ・**Bクラス**

「環境課題の自社影響を把握し管理」

ホンダ優良感謝賞（品質部門）



新機種安定立上げへの最高レベルの品質パフォーマンスが評価され、
304社中11社が選ばれた品質部門の優良感謝賞を受賞

“GM Supplier of the Year 2024”



品質・コスト・デリバリー・開発および立上げといった総合力が高く評価され、
全サプライヤーのうち**92社**が受賞

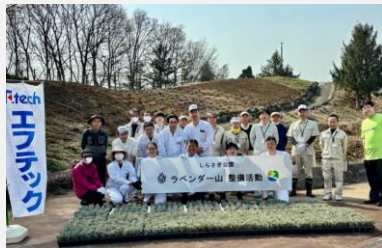
得意先様からの表彰実績（2024年度一覧）

※敬称略



受賞対象	種別	表彰先	内容
芳賀（栃木県）	安全	栃木県労働局	栃木労働局長奨励賞
日本国内	品質	NISSAN	優良品質感謝状
	品質	HONDA	優良感謝賞（品質部門）
亀山（三重県）	効率	文部科学省	創意工夫功労者賞
北米拠点	供給	General Motors	GM 33rd Supplier of the Year Award
DM（カナダ）	供給	General Motors	Certificate of Excellence Platinum Supplier Status
FPG(アメリカ)	品質	NISSAN	Regional supplier quality master certificate
	感謝状	HONDA	Challenging Spirit Award
FPMX（メキシコ）	品質	General Motors	Supplier quality excellence Award 2023
FTW（中国）	品質	SAIC-GM-Wuling Automobile	優秀サプライヤー賞
FPMI (フィリピン)	感謝状	Yamaha Motor Philippines	Certificate of Appreciation for achieving Deliver Performance target
	供給	Mitsubishi Motors Philippines	Superior Delivery Performance award
	品質	TOYOTA	Superior Quality Award
	供給	TOYOTA	Superior Delivery Award
ISS（インド）	品質	Bellsonica	Quality Sustenance award
	供給	Toyota Boshoku Device India	Best Supplier for QCD
VGAC（インド）	感謝状	Suzuki Motor Gujarat	Certificate of appreciation

◆生物多様性への取り組み



新たに久喜市と協業し、
生物多様性取り組みの
トライアルとして近隣公園
にてラベンダー山の整備
活動を実施しました。

◆教育機関への支援



世界各地で地域社会貢献
の一環として地元の教育
機関への環境教育や生物
多様性取り組みなどの活動
を積極的に行っています。

◆フードドライブ実施



昨年11月、多くの方に提供
いただいた食料や日用品を
埼玉県久喜市内の子ども
食堂へ寄付しました。

サステナビリティ活動を推進し、更なる企業価値向上へ

ご清聴ありがとうございました

Thank you for your attention!



本資料で記述している将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績と記述としている将来見通しは、大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。

The future outlook and earnings forecasts in this document are made based on the information available at the moment, and they include potential risks and uncertainties.

As a result, please bear in mind that actual business performance may substantially differ from the stated future forecasts due to changes in various factors.

IR情報のお問い合わせ、取材お申し込みは

For inquiries on IR information, please contact:

株式会社エフテック 管理本部 総務部/経理部

F-TECH INC. Management Planning Division General Affairs Department/Finance and Accounting Department

代表TEL

0480-85-5211

Mail

webmaster@ftech.co.jp

「エフテック」で検索

<https://www.ftech.co.jp>



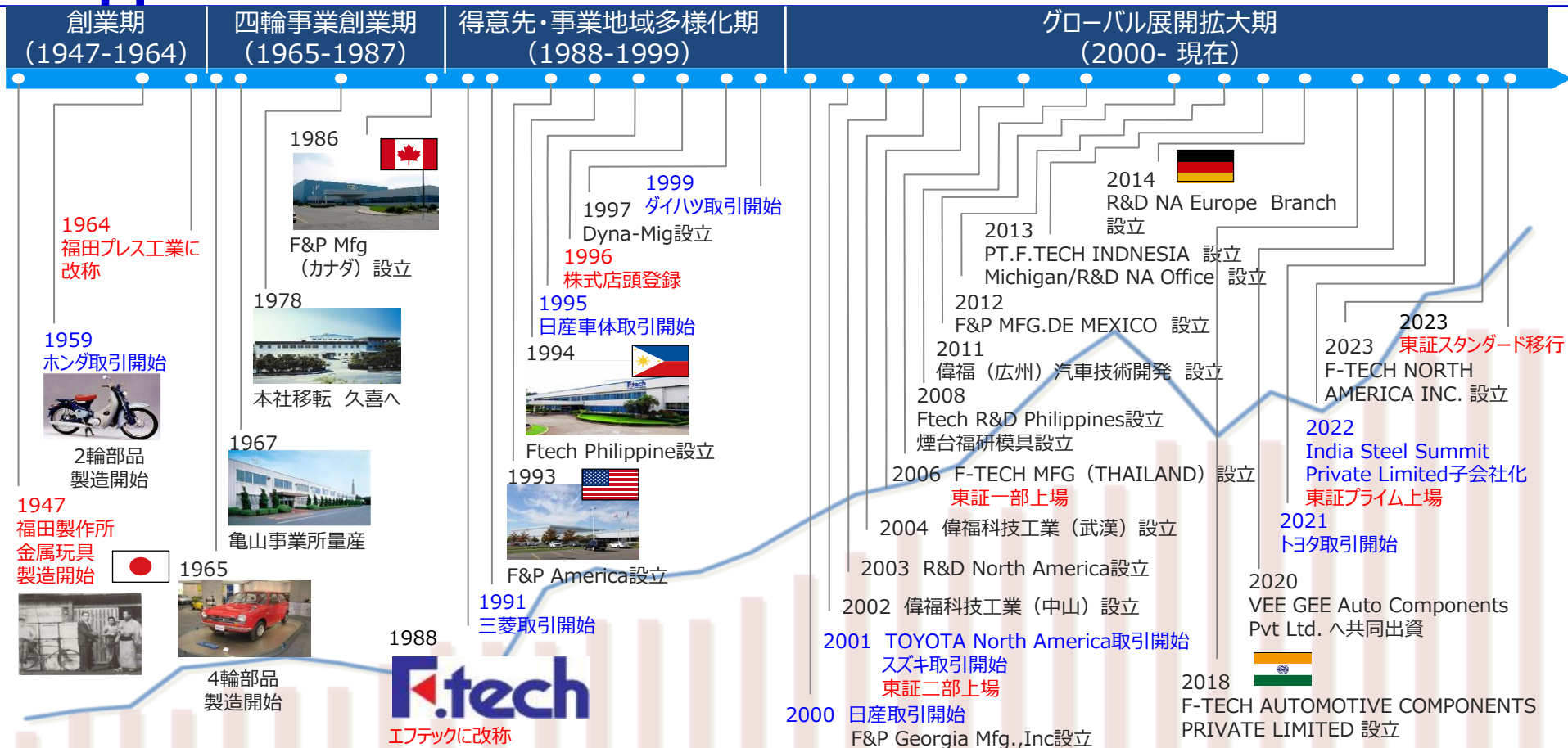
Appendix

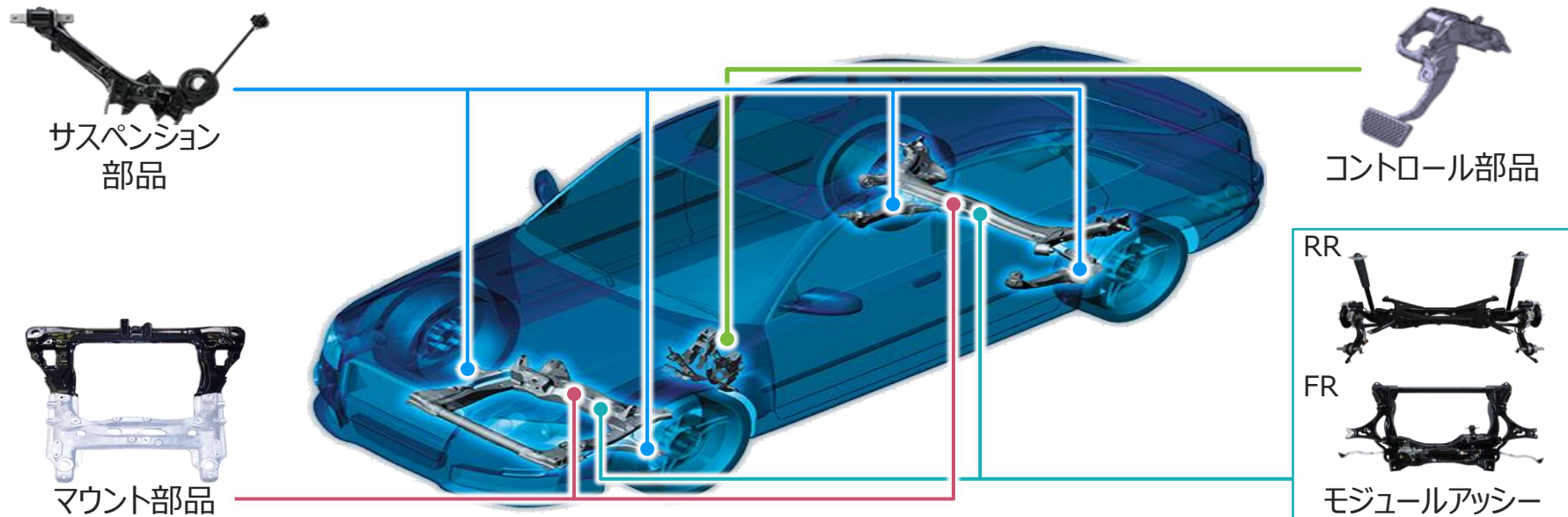
会社名	株式会社エフテック
市場区分	東証スタンダード（7212）
資本金	67.9億円
代表者名	代表取締役社長 福田 祐一
売上高（連結）	3,008億円（2025年3月期）
従業員数（連結）	9,554人（単体：939人） ※単体：国内エフテックのみ（子会社、海外駐在員含まず）
設立年月日	1947年7月1日
本社所在地	〒346-0194 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地
主要取引先	本田技研工業株式会社、ゼネラルモーターズ社、トヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、etc.
主要製品	自動車向け足廻りサスペンションアーム、サブフレーム、アクスルビーム、ペダルコントロール等



2025年3月末現在

Appendix ～沿革～





当社の製品は、「走る」・「曲がる」・「止まる」の基本機能を司る、
重要保安部品であり、より高い操縦安定性や乗り心地、
衝突時の安全性を考慮した最適仕様を提案します

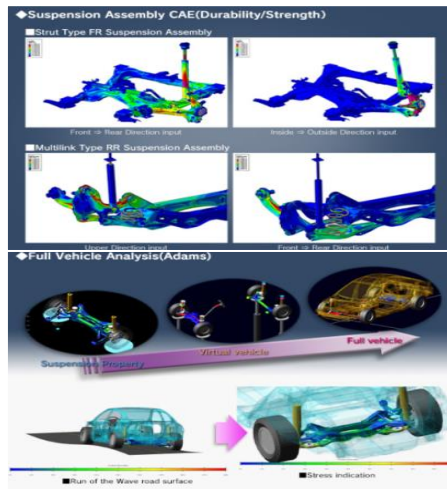
製品開発

塑性成形

接合

塗装

組立



製品の企画開発から量産まで、全工程を独自の一貫加工体制で対応、
圧倒的に競争力の高い製品をスピーディーに提供

●【国内事業所】

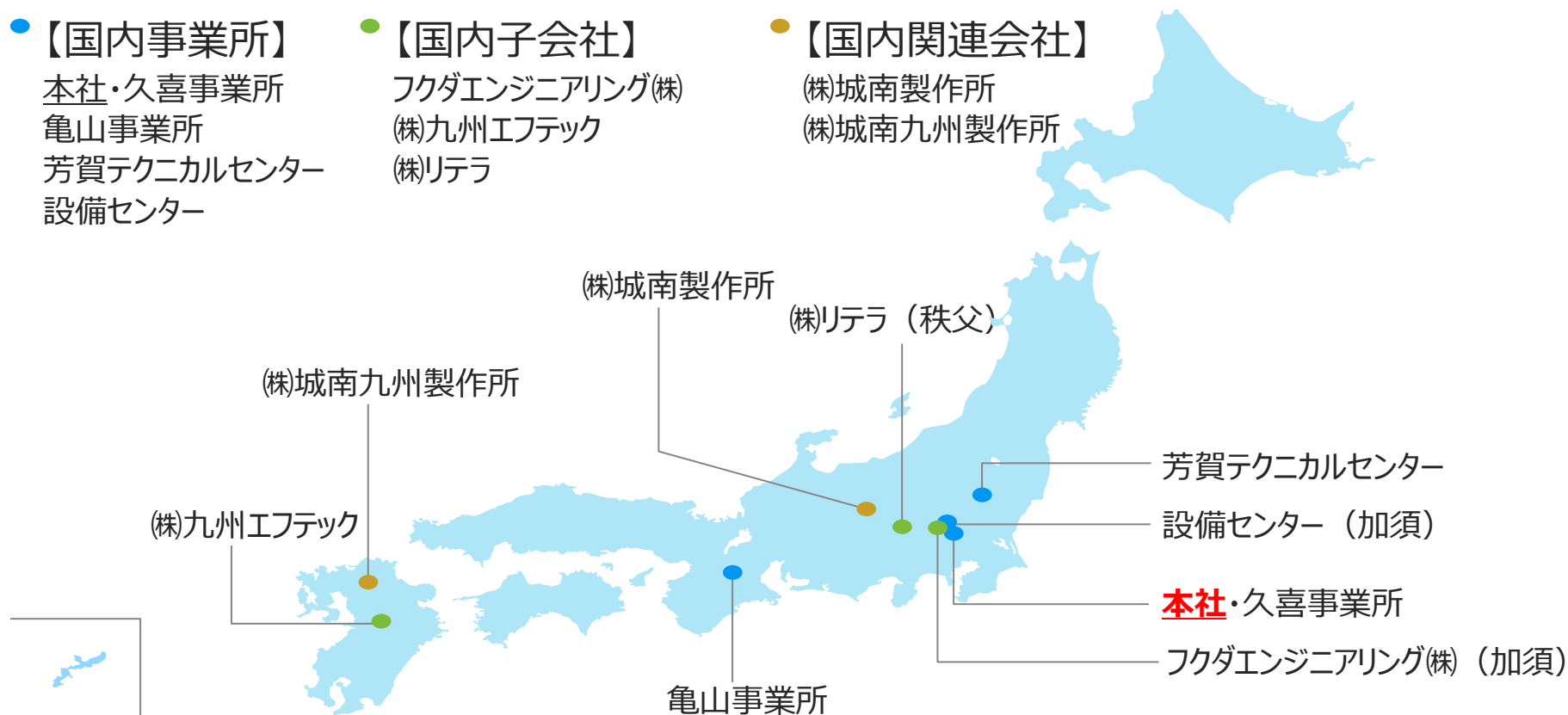
本社・久喜事業所
亀山事業所
芳賀テクニカルセンター
設備センター

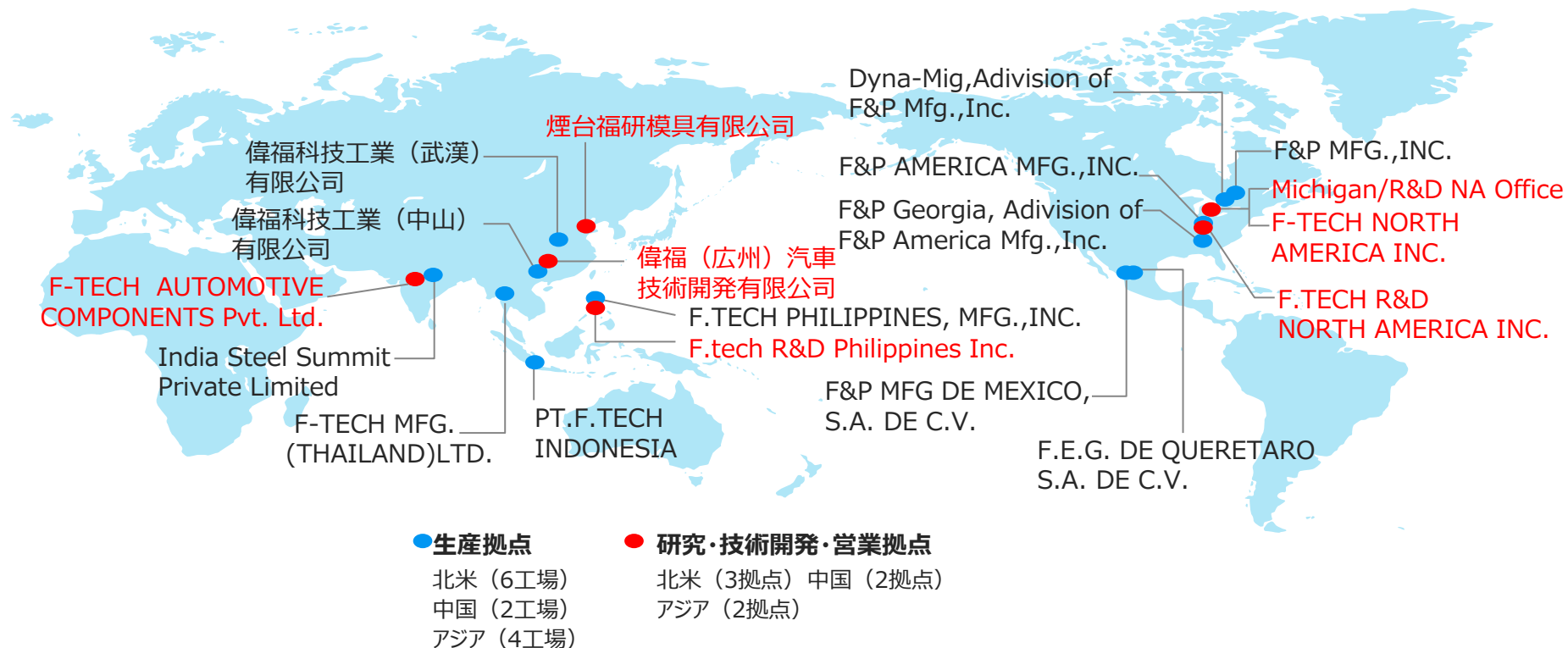
●【国内子会社】

フクダエンジニアリング(株)
(株)九州エフテック
(株)リテラ

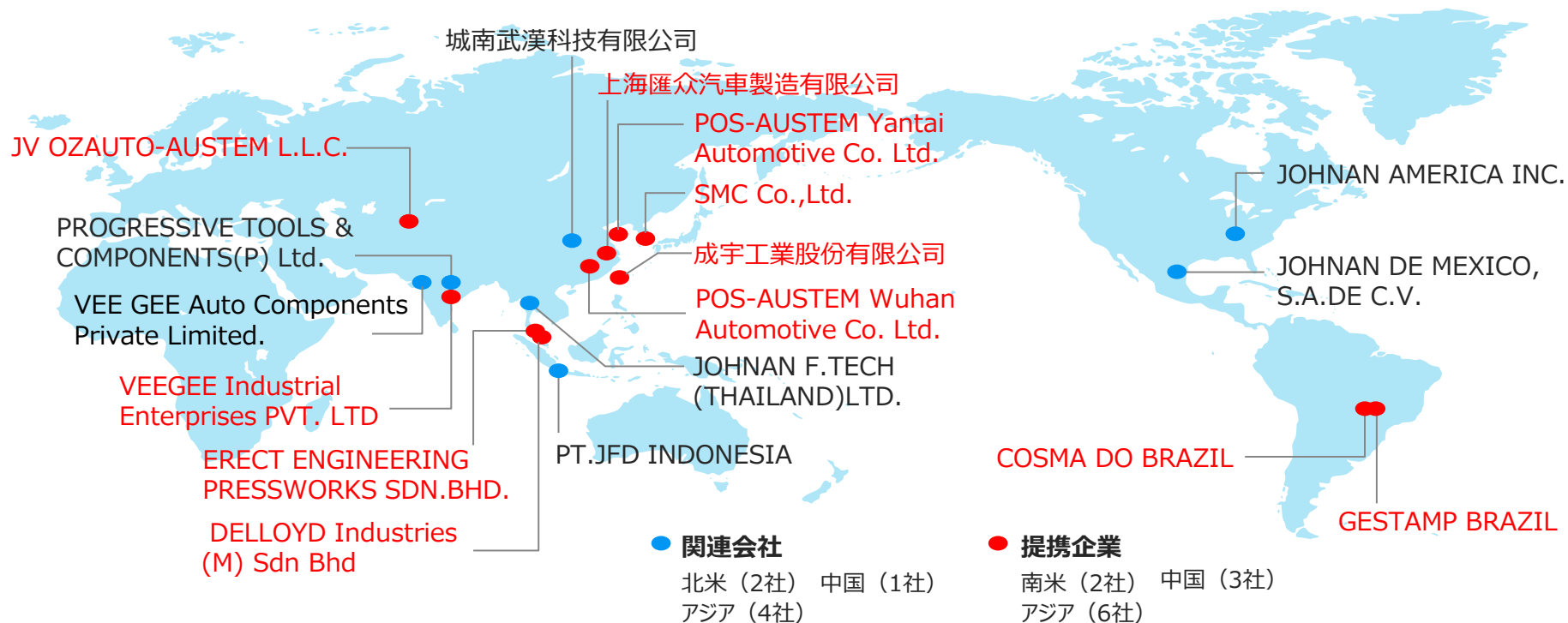
●【国内関連会社】

(株)城南製作所
(株)城南九州製作所





世界8カ国12生産拠点、7研究・技術開発・営業拠点を展開



世界6カ国・1地域での提携関係により、当社製品の世界供給体制を構築